

令和元年8月27日

印旛地区教育研修会

国語科「話すこと・聞くこと」分散会 提案資料

研究課題

言葉で伝え合う力を身に付け、
深まりのある話し合いができる児童の育成



印西市立小倉台小学校

1 研究主題

言葉で伝え合う力を身に付け、深まりのある話し合いができる児童の育成

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

今日の前にいる子どもたちが社会を担う頃には、社会構造や雇用環境は大きく、急速に変化していくだろうと予測されている。すぐには解決できない様々な問題が山積する社会、情報化やグローバル化が一層進んでいく社会を生き抜くためには、互いの立場や考えを尊重し協力していく姿勢、様々な情報を取捨選択して活用する力、状況の変化に柔軟に対応し、新たな考えや方法を生み出す力を育てていくことが求められている。

そこで本校では、相手を尊重して聞く態度を育て、言葉で正しく理解したり表現したりする力を身に付けさせたい。話したり聞いたりする活動を通して、新しい考えを見つけていく力を育てていきたいと考えた。

(2) 学習指導要領から

国語科の教科目標を受けて示された3つの柱の中の(2)では、「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」と掲げられている。「伝え合う力を高め」は、前回、前々回の学習指導要領から継続されている。それは、現代社会の中でも伝え合う力の必要性が課題であり、大事な学力として押さえられているからだろう。人と人との関係の中で、考えや意見の合わない人ともお互いの立場を尊重し、言葉を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を育成することが求められている。

また、国語科の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語科で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とある。そして、この言語活動を「主体的・対話的深い学び」の視点から授業改善を進めるように学習指導要領に示されている。

国語科における「深い学び」の実現に向けて、言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けることが大切だろう。「話すこと・聞くこと」では、相手の考えや意見をじっくりと聞き、意見を受けとめる、対話的な態度を育成すること、友達や教師と関わりながら理解し直したり表現し直したりしながら、多様なものの見方を学んでくることが、深まりのある話し合いへとつながっていくと考える。

(3) 学校教育目標から

本校の教育目標は、「豊かな心を育み、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」である。ここでいう「豊かな心」とは、多面的な見方をしたり、自分と違うものの見方や考え方を尊重したりすることができる心である。「自ら学ぶ」とは、自主的に学習することである。「たくましく生きる」とは、課題や問題に挑戦し続ける強い心と体を持つことである。

伝え合う力を身に付けることは、人との関わりを深め、お互いを理解し合う力になるだ

ろう。また、新しいものの見方や考え方を発見する機会となる。そして、豊かな心を育てることへとつながっていくと考える。

(3) 児童の実態から

2016年度より3年生以上の学年で外国語活動・外国語の研究を行ってきた。外国語活動を通してコミュニケーション能力の素地を培うことを目標としている。そこでは、「smile」「eye contact」「clear voice」の3つを合言葉に、コミュニケーションに欠かせない共感的な態度の育成を図ってきた。

昨年度行った国語科の児童アンケートを見ると、自分の思いや考えを話すことが得意と答える児童は、1年生は8割近くと高く、6年生は5割を切る結果となった。人の話を聞いてその意味がよく分かるかという質問には、どの学年も約8割の児童が分かると答えている。また、友達の話聞いて感想を言ったり、質問したりすることが、良くと答えた児童は、どの学年も6割程度であった。

一方で、教師側のアンケートによると、

- ・原稿があれば話せるが質問されたことや人の話を受けて自分の考えを話すことはできない。
- ・自分の考えと関係があることは聞いているが、自分の考えと比較したり共感したりしながら聞くことができない。
- ・意見を出し合って、結論を導き出そうとする姿勢に欠ける。相手の意見を受け入れて話し合う姿勢が育っていない。

であり、児童の答えたアンケートとの差があった。児童にとって話したり聞いたり、話し合ったりする活動は、日常的に行っていることで難しさを感じていないからか自己評価は高い。しかし、教師側としては、伝え合いの力が低く上手くコミュニケーションが図れていない、話し合いが深まらないと感じていることがわかる。

そこで、「話すこと・聞くこと」の活動では、児童自身が目的や必要性を意識して取り組めるような課題を設定する。そして、相手の話をじっくりと聞き、意見を受けとめる聞き方、受け止めた上で質問や感想を述べる、対話的に聞く態度を身に付けることを目指す。さらに、語彙を広げる活動を工夫し、言葉で正確に伝え合う力を高めていきたいと考える。

以上述べた、今日的課題、学習指導要領、学校教育目標、児童の実態から、「言葉で伝え合う力を身に付け、深まりのある話し合いができる児童の育成」を主題として設定した。

3 主題について

(1) 「言葉で伝え合う力を身に付ける」とは

学習指導要領の中で、「伝え合う力」とは、「人間と人間の関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力」と示されている。

「言葉で伝え合う力」とは、単に自分の思いや考えを話す、相手の話を聞くということではない。自分の思いや考えを正確に言語化し、聞き手に分かるように話す力、心が話し手

の方を向き、相手を受け止めようという気持ちで聞く態度、相手の思いや考えを受けとめた上で質問や感想を述べることができる力であると捉えた。

(2) 「深まりのある話し合いができる」とは

本校の話し合い活動を見てみると、グループの一部の子供が意見を発言するだけに終わってしまう話し合いや、全員が発言しないまま、安易に多数決で決まってしまう話し合いが少なくない。「深まりのある話し合いができる」とは、まず対話的な態度で、話し合いに臨むことができるということである。話し手は、聞き手の反応を見ながら、自分の思いが伝わるように工夫して話す。聞き手は、相手の意見を受けとめるという姿勢でじっくりと聞く。そして、相手の意見を受けとめた上で、質問や感想を述べる。さらに、お互いの意見を取り入れて比較検討をする。そうすることで、自らの考えを見つめ、広げたり、新たな価値に気付いたりする、深まりのある話し合いができるようになると思う。

4 めざす児童像 (話すこと・聞くこと)

低 学 年	中 学 年	高 学 年
○相手に伝わるように、事柄の順序を考えて話せる子	○相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心を明確にして話せる子	○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、構成を考えて話せる子
○伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さを工夫して話せる子	○話の中心や場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫して話せる子	○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫して話せる子
○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさずに聞き、話の内容を捉えて感想をもてる子	○必要な事を記録したり質問したりしながら聞き、話の中心を捉えて自分の考えをもてる子	○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめることができる子
○お互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる子	○目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる子	○互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりできる子

5 研究仮説について

仮説1 相手意識や目的意識が明確となる課題を設定すれば、自分の思いや考えをしっかりともち、生き生きと伝え合うことができるであろう。

生き生きと伝え合うためには、まず、伝える相手や目的を明確にさせ、学習に取り組むことが必要である。

相手意識や目的意識が明確となる課題とは、児童自身が「だれに」「何のために」その言語活動を行うのかということが分かっていることである。そのためにも、児童の実態に合わせて、児童の願いや思いを生かした課題を設定することが大切である。さらに、伝え合うためには、「何を」「どのように」「どんな力を身に付ければ、課題が達成できるのか」を児童一人一人が考え、学習の見通しを持ち、計画を立てることで、目的や必要性を意識して意欲的に学習に取り組めるだろう。また、自己の言語活動を振り返る場面を設けることで、自分の伝え合う力の向上した点を実感し、次の課題を自分で見つけ学習を進めていくことが期待できる。そのような、主体的な学びを通して、言葉で伝え合う力を身に付けていくことができると考えた。

(具体的手立ての例)

- ・児童の実態に合わせた、学習活動の工夫（目的・相手を明確化）
- ・学習の見通しを持たせるための工夫
- ・自己評価カードを使った形成的評価を行う。

仮説2 話し方や聞き方を身につけさせる指導の工夫をすることで、対話的な能力が育ち深まりのある話し合いができるであろう。

深まりのある話し合いを目指すには、対話的な能力を育てていくことが必須である。

対話的とは、一方的に話すのではなく、お互いの話をよく聞き合い、共有し、様々なものの見方から自分の考えを広げ深めていくことと考える。その力を伸ばしていくためには、話し方や聞き方を身に付けさせる指導を工夫していくことが大切である。

話し方を身に付けるためには、話し方の言語技術を教えるのではなく、伝え合う相手や場を明確にし、自分たちでどのような言語技術が必要なのか考えていく学習の場を設定する。そして、自分の思いや考えが正確に言語化できているのか、相手に伝わる内容になっているのかを振り返り、試行錯誤ながら取り組める活動にしていく。また、自分の思いや考えを正確に伝えるために必要な語彙を集める活動も入れることで、語彙を広げ、言葉で正確に伝える力を育てることができるだろう。

相手の考えや思いを受けとめる聞き方を身に付けるためには、どのような聞き方をすればこの課題が達成できるのかを、児童自身に考えさせる活動を設定することが必要だと考える。また、聞いたことで「相手を理解できて嬉しい」、「新しい考えやものの見方を発見できたという喜び」が味わえるように活動内容を工夫する。さらに、聞いて感じたことや思ったことを表現する場を設けることで、自分の聞き方を振り返り、自己の聞き方を高められると考える。また、話し手には、何が伝わったのか明確になり、次の自己表現への意欲へとつながっていくと期待できる。

このように話し方や聞き方の指導を工夫していくことで、お互いの意見や考えを正確に伝えたり理解したりできるようになり、相手を受け入れて比較検討する姿勢が育ち、新しい考え方やものの見方を発見できるような話し合いの力を身に付けていけるようになると考える。

(具体的手立ての例)

- ・ 言語モデルや交流の進め方の手引きを示す。
- ・ 示したものをもとに、話の型を子ども達に考えさせ、イメージ化を図る。
- ・ 目的に応じた学習形態の工夫 (ペア・グループ・全体)
- ・ 語彙を増やす指導の工夫 (読書・言葉集め)
- ・ 自己評価・相互評価の工夫
- ・ 外国語活動との学習をリンクさせる。(「smile」「eye contact」「clear voice」・言葉集め・相づち)
- ・ 視聴覚機器の活用

学習の実際 〈1年生〉

単元名	教えてもらおう 教えてあげよう 小倉台小のすてきなところ ～小倉台小クイズをつくろう～
つきたい力	インタビューによって情報を取り出し、大事なことを伝え合う言葉の働きに気付いたり、そのよさを感じたりする力。
言語活動	①この6年生は誰だクイズ ②小倉台小クイズ大会

相手意識や目的意識が明確となる課題を設定 仮説1

目的意識

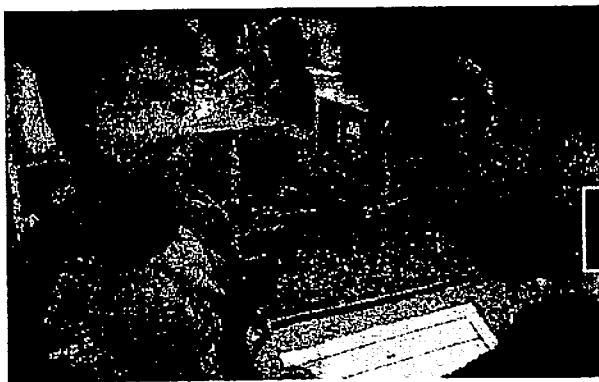
2年生になった時に、先輩として1年生にしっかりと学校の案内ができるよう、もっと小倉台小学校について詳しくなるため。

11	10	9	ののび	8	7	6	5	4	3	2	1	おしえてもらおう おしえてあげよう おぐらだい小がっこうの すてきなところ
がんばったことを ふりかえろう。	おぐらだい小クイズ大かいを しよう。	おぐらだい小クイズを つくろう。	先生たちに インタビューを しよう。	先生たちへの インタビューの じゅんぴをしよう。	六年生に おしえてもらったことを まとめよう。	「この六年生は だれだクイズ」を しよう。	六年生に インタビューを しよう。	六年生への インタビューの じゅんぴをしよう。④	六年生への インタビューの じゅんぴをしよう。③	六年生への インタビューの じゅんぴをしよう。②	六年生への インタビューの じゅんぴをしよう。①	どんな がくしゅうを するのかな。
												

言語活動1 この6年生は誰だクイズ

- ① ペアの6年生に、小倉台小学校で頑張ってきたことをインタビューする。
- ② 聞いたことを、インタビューの後でメモに書く。
- ③ 6年生と1年生で小グループを作り、そのグループの前でメモを見ながら聞いたことを発表し、その6年生が誰のことかを6年生に当ててもらい「この6年生は誰だクイズ」をする。
- ④ クイズで、聞いたことを正確に話せていたかをペアの6年生に評価してもらう。
- ⑤ 今までお世話になった6年生について、これまでは知らなかった努力や思いがあったことをグループで共有し、「6年生を送る会」への意欲を高める。

「この6年生は誰だクイズ」をするために、ペアの6年生から、ヒントになる情報をたくさん聞き出そうとしたり、正確に聞いたりしようという意欲が持てる。



↑《6年生にインタビューしている様子》



↑《話し方がどうだったかの振り返り》

6年生の名前	1年生の名前	◎○△	
あいての目を見てはなすことができたか。		○	○
いそがずゆっくりはなすことができたか。		○	○
うなずきながら聞いていたか。		○	○
えがおでインタビューができたか。		○	○
おわりまではっきりとはなすことができたか。		○	○
コメント（きちんと質問ができていましたが、受けて話す言葉が書えていましたが）			

すぐに6年生に評価してもらうことで、もっとよい伝え方ができるようになるようとする意欲が持てる。

2回目のインタビュータイムで1回目にできなかったことを意識して話すことができる。

↑《6年生の評価カード》

- 1対1が保証されていたので安心してインタビューできた。
- 自分のインタビューがどうだったかすぐに評価してもらえた。
- 質問することに一生懸命で聞いたことを覚えられない児童もいた。
- 質問を重ねるのが難しかった。

《継続して指導する既習内容》

話し方あいうえお

- ①あいてにきこえるように
- ②いそがずゆっくり
- ③うつむかないで
- ④えがおで
- ⑤おわりまではなそう

聞き方あいうえお

- ①あいてをみて
- ②いしせいで
- ③なずきながら
- ④えがおで
- ⑤おわりまできこう

《話し方聞き方ドリル》

授業の始まりに毎時間ドリルをして心と体のウォーミングアップをする。

① 早口言葉

言いにくいけ
どはっきり言
わないと。



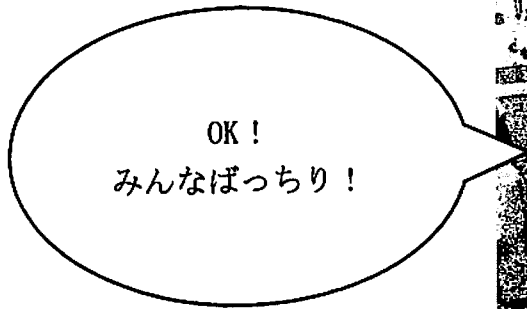
② 音読キャッチボール

- ・交互に詩を音読する。
- ・「話し方あいうえお」に気を付けて相手に声を届けられているのか確かめる。
- ・届いていたら一步下がっていく。



③ 伝言ゲーム

- ・ 3人1組になる。
- ・ 1番がテーマに沿った自己紹介をする。
- ・ 2番は、1番の紹介をしてから自分の自己紹介をする。
- ・ 3番は、1番と2番の紹介をしてから自分の自己紹介をする。

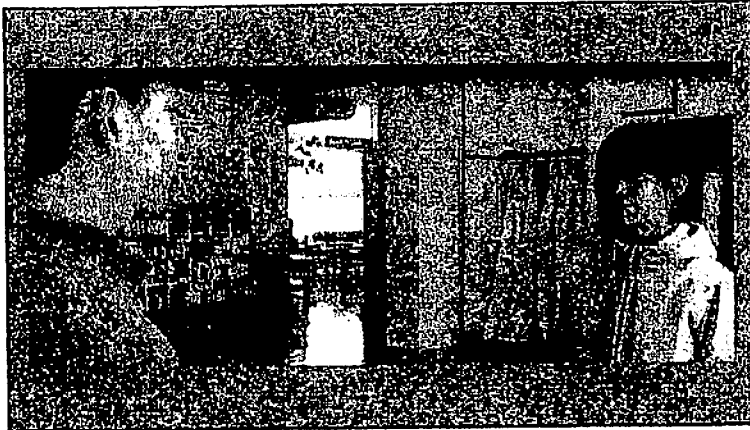


《単元の指導の工夫》

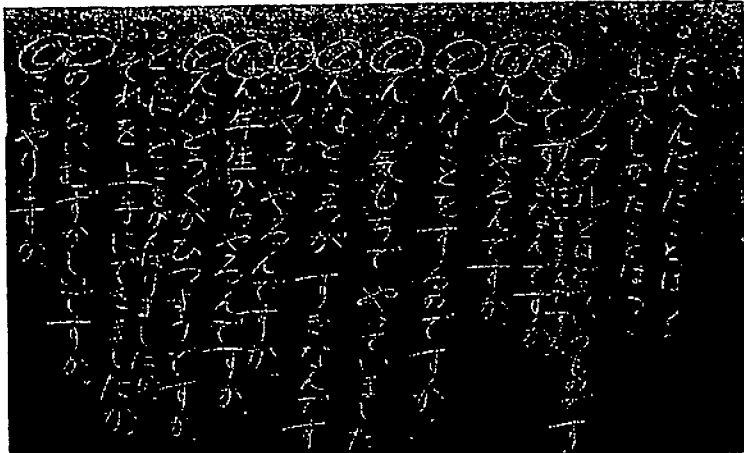
6年生のお手本動画から、本時の学習内容をつかむ。

レベル1 (2/1 1時間)

「質問のコツ」作り



お手本動画では、
どんな質問をしていたかな。



他にはどんな質問が
できそうかな。

言語活動 2 小倉台小クイズ大会

- ① 先生方にインタビューする。
- ② 聞いたことをメモに書く。
- ③ メモをもとに先生の紹介をする。
- ④ 先生紹介スピーチの内容から、大事なことを落とさずに聞いたかを確認するクイズをする。

1対1で先生にインタビューすることで、大事なことを落とさずに聞き、みんなにしっかり先生紹介をしようという意欲がもてる。



↑《先生にインタビューしている様子》



↑《クイズ大会の様子》

- 一度インタビューを経験しているのので、少し自信をもって臨めた。
- 先生について紹介した後で、そのスピーチ内容からクイズが出るので、聞き手が内容をしっかり聞き取ろうとすることができた。

学習の実際 〈4年生〉

単元名	すてき発見！聞いて！マイブーム
つけたい力	相手に伝わるように、話の組み立てを考え、理由を挙げながら話す力
言語活動	話の中心に気をつけて聞き、感想をもち伝える力 マイブーム スピーチ大会

相手意識や目的意識が明確となる課題を設定 仮説1

目的意識

- ・お互いのことをもっと知り、仲良くなるため。
- ・クラスの友達に、知ってもらいたい事柄を伝える。
- ・友達の素敵などところを発見する。

○スピーチの話題を選ぶ

思いつくままに書き出し、その中から皆に知ってもらいたい自分やまだ知られていない自分を選ぶ。

The image shows two grids of speech topics written in speech bubbles. The left grid has a vertical title 'すてき発見！聞いて！マイブーム' and a central bubble 'マイブーム'. The right grid has a vertical title 'すてき発見！聞いて！マイブーム' and a central bubble 'マイブーム'. Both grids contain various topics such as '図工' (Art), 'サバイバル' (Survival), 'テニス' (Tennis), 'イテQ' (IT Q), 'リレー' (Relay), '体育' (Physical Education), 'マオハタル' (Maohataru), 'テニスのゲーム' (Tennis Game), 'テニス' (Tennis), '金曜日' (Friday), 'ゲーム' (Game), and 'サッカー' (Soccer).

話題を決めることが苦手な児童も、吹き出しに書いてあることの中から選ぶことで、伝えたいことを決めることができた。

○学習の見通しをもたせるために、学習計画を立てる

「何を」「どのように」「どんな力を身に付ければ、課題が達成できるのか」を話し合い、学習計画を立てる。

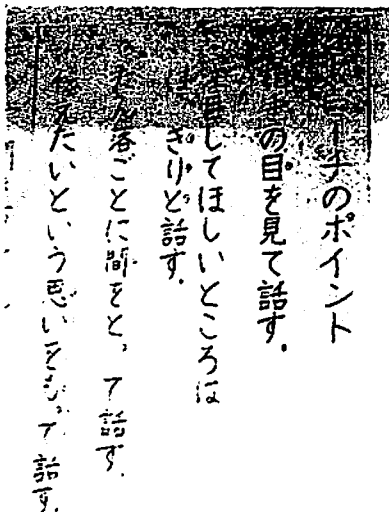
(学習計画表)

七・八 グループごとに、「マイブームスピーチ大会」を開く。	六 ペアでスピーチを聞き合い、アドバイスをし合う。	五 「すてき発見」のための聞き方、質問や感想の伝え方を考える。	四 スピーチメモを書き、音声表現を工夫した話し方を練習する。	三 相手に伝わりやすい話し方について考える。	二 学習計画を立てる。話題を考える。	一 学習課題を立てる。
----------------------------------	------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	---------------------------	-----------------------	----------------

自分のことを相手にわかりやすく伝えるという目標やそのために何ができるようになればよいかははっきりとしたことで、学習の見通しを一人一人がしっかりと持ち、主体的に活動することができた。

話し方や聞き方を身に付けさせる指導の工夫 仮説2

○話し方を考える

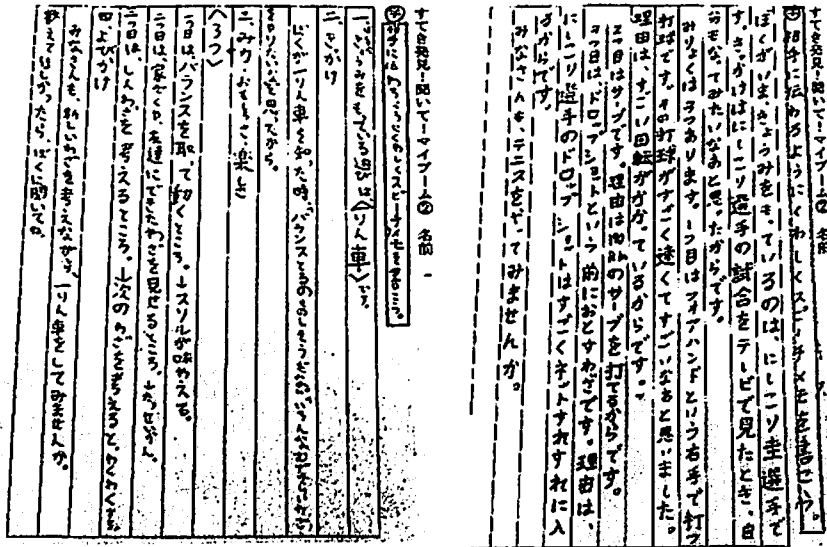


話す姿勢や話し方についてだけでなく、伝えたいという思いをもつことも大切だと子どもたちが考え、スピーチのポイントとした。

(教室掲示物)

○スピーチ原稿を書く

わかりやすく伝えるには、どのような文章構成にしたらよいのかを話し合った。



単元の始めに行った、教師のスピーチをもとに話し合い、基本的な構成を次のようにした。

1. 夢中になっていること
2. 夢中になったわけ
3. そのおもしろさ・魅力
(詳しく理由を付ける)

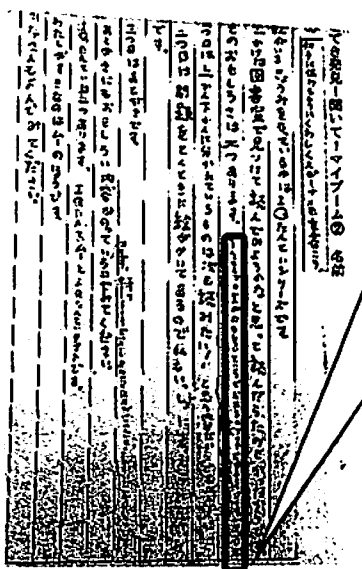
○交流の場を作る

書き終わった児童でペアを作り、夢中になっているわけが伝わるような内容になっているのか、読み合うことにした。

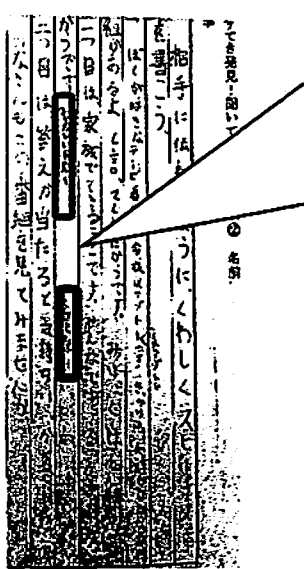


聞き手

何が? どのように? 例えば?



「たとえば」と例を挙げて説明するように直していた。



「答えが当たると気持ちがいい」「難しい問題の答えが当たるとすかっ」として気持ちがいい」と直した。

交流の場を設定することにより、伝えたいことが相手にわかりやすく書けているのか見直すことができた。
児童同士だと、深まりがあまり見られなかった。アドバイスできる児童が少なかった。

○タブレットを活用して練習する（一人練習→ペア練習）

自分がスピーチしている様子を録画し、それを再生して自分の課題を見つける。その課題を改善するために、練習することを繰り返した。



タブレットを活用した一人スピーチ練習

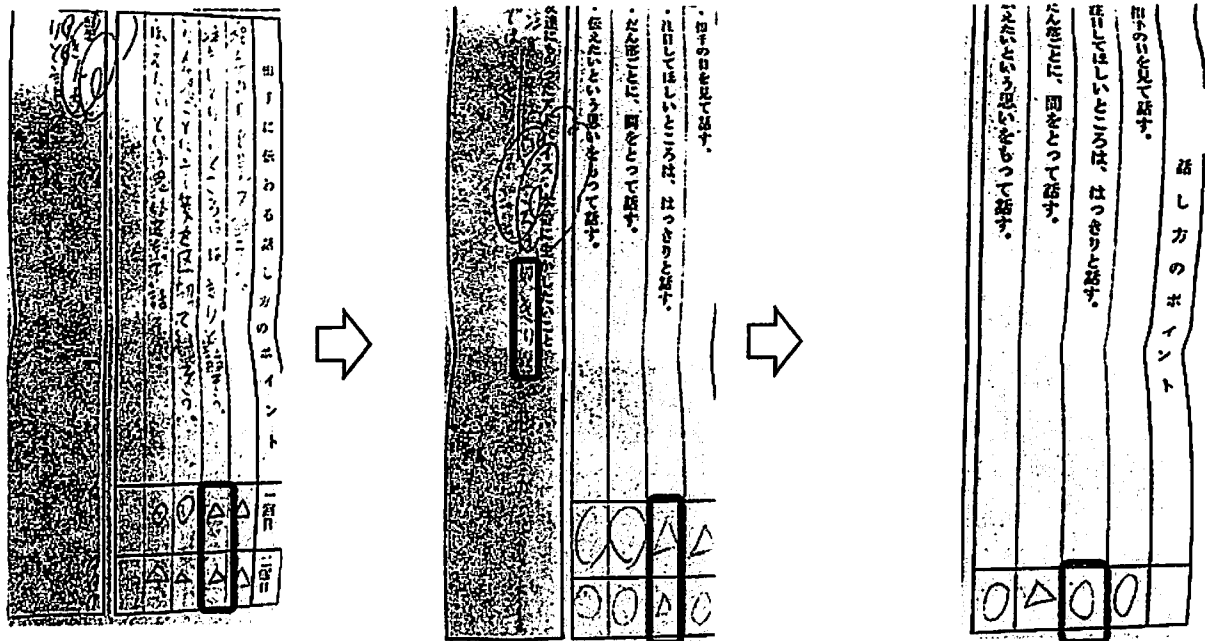


タブレットを活用したペア練習

映像を見ることで客観的に振り返ることができ、自分の課題を明確にすることができた。録画した映像を二人で見て振り返りをするすることで、アドバイスをする際の手助けとなった。

○振り返りカードを活用し、形成的自己評価をする

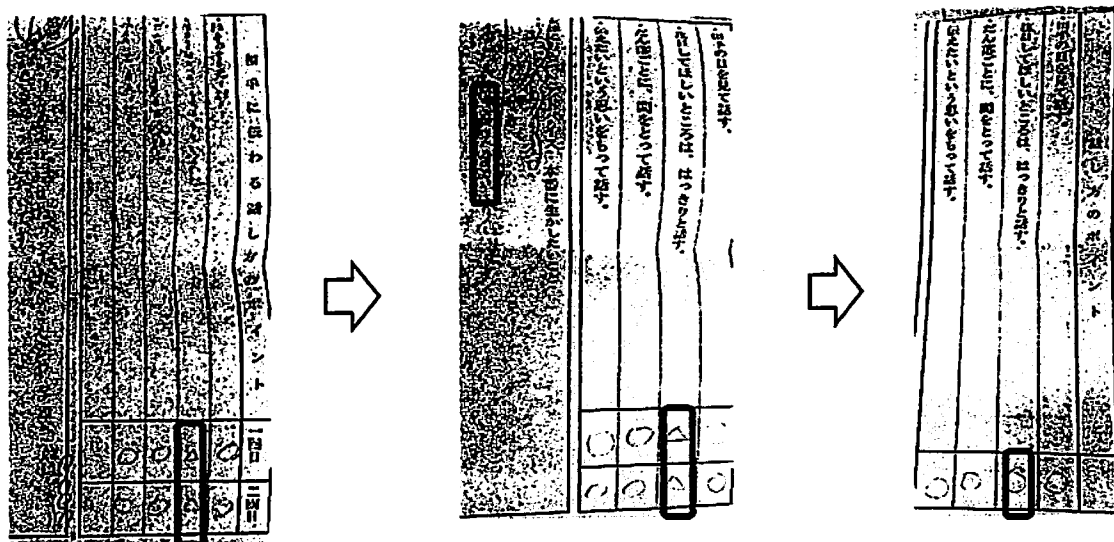
A児（皆の前でスピーチすることを苦手としている。）



①一人での練習 → ②ペアでの練習 → ③スピーチ大会

練習時は、「はつきりと話す」の項目を△と自己評価し、「はつきりと言うこと」を次のめあてとしていた。本番のスピーチ大会では、はつきりと話すことができたと評価し、話す力で伸びた点を「はつきりと言えるようになったこと」と書いていた。

B児（発表するときには、声が小さい。学習中、挙手することはほとんどない。）



①一人での練習 → ②ペアでの練習 → ③スピーチ大会

一人やペアの練習では、「はつきりと話せなかった。」と評価している。本番は、声が聞こえるように話したいというめあてをもって発表に臨んだ。単元の振り返りカードでは、「本番は、はつきりと話せた。」と書いていた。

○聞いたことを違うグループへ伝える場を設定する



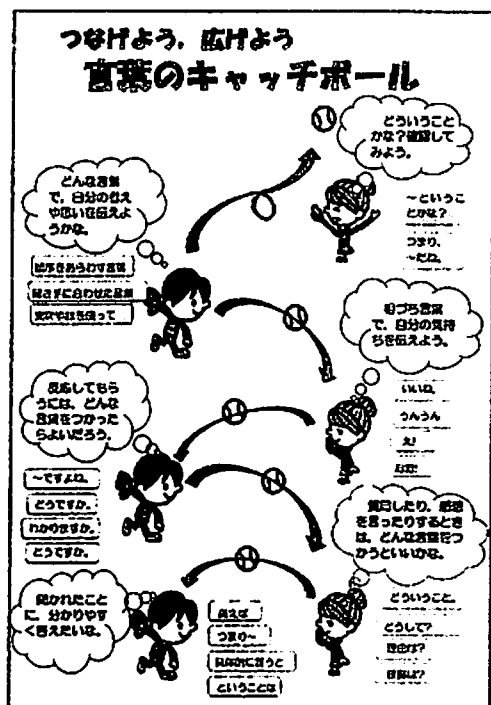
聞いたことを伝える場を作ったことで、伝えるために聞くというもう一つのめあてをもち、スピーチを聞くことができた。

2019年度 交流の質を高めていくための取り組み

学習の実際 〈5年生〉

単元名 わが町印西ベストスリーを決めて、3年生に伝えよう
 つけたい力 推薦理由を明確にして、情報を収集し、整理する力
 聞き手を納得させるために、構成や話し方を工夫して話す力
 推薦理由に納得できるか考えて聞く力
 言語活動 わが町印西ベストワン スピーチ大会

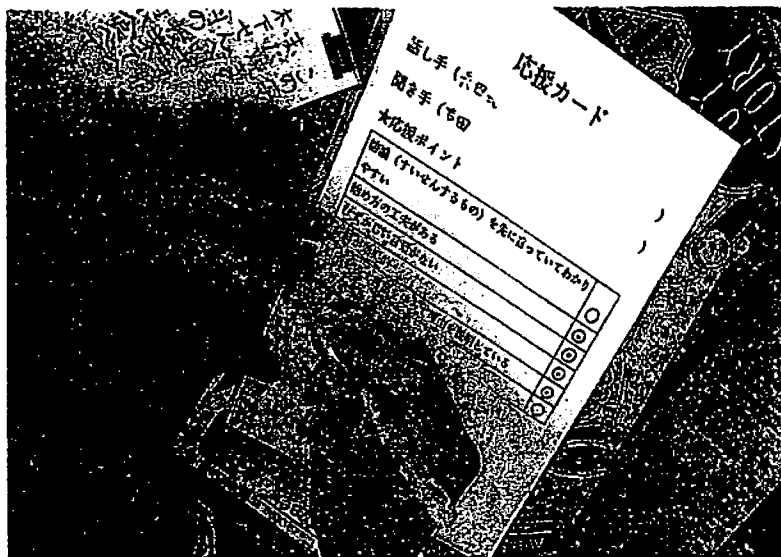
○継続して指導する既習内容



ペアやグループで交流する際のヒントになるように、教室前方に掲示している。
 「～ですね。」と聞き手を意識した話し方ができるようになってきている。

(教室掲示物)

○推薦原稿を書いた後、「応援タイム」で交流する。



応援カード

話し手 ())

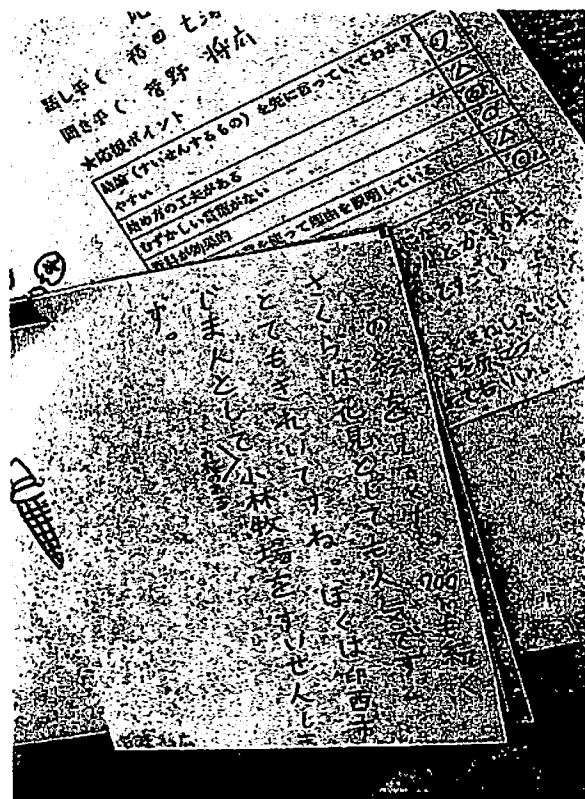
聞き手 ())

★応援ポイント

結論 (すいせんするもの) を先に言っていてわかりやすい	<input type="checkbox"/>
易しい	<input type="checkbox"/>
詰め方の工夫がある	<input type="checkbox"/>
むずかしい言葉がない	<input type="checkbox"/>
資料が効果的	<input type="checkbox"/>
順序を表す言葉を使って理由を説明している	<input type="checkbox"/>
伝えたいことを強調している	<input type="checkbox"/>

★あなたの推せん理由、ここになっとく！

★あなたのスピーチのここをまねしたい！



応援カードを使い交流の観点をはっきりさせたことで、戸惑いなく取り組めていた。

応援タイムの後、推薦原稿に、詳しく伝える言葉や資料を示す場所を書き加えることができた。

カードに書いたことを伝えるだけでなく、双方向のやりとりができるとよかった。

〈研究の成果と課題〉

1. 成果

- 相手意識や目的意識（誰に何のために伝えるか）がはっきりしていたので、話したいという思いをもち、意欲的に学習に取り組むことができた。
- 単元のゴールの姿を確認し、話し合っって学習計画を立てたことで、学習の見通しを持つことができた。
- 様々な学習で交流の場を設定することにより、聞き手を意識した話し方ができるようになった。（反応を見る。理解しているか確認しながら話をする。）聞き手も、うなずいたり相づちをうったりと反応しながら聞けるようになってきた。
- 形成的評価をすることで、ゴールに向かう自分の位置が確認でき、次のめあてを明確にして活動に取り組むことができた。

2. 今後の課題

- 自分の思いや考えをわかりやすく伝えるためにも、語彙を増やし活用する力を育てていく必要がある。
- 思いや考えの伝え合いで終わるのではなく、そこから新しい見方を発見したり自分達の考えを深めたりできるような質の高い交流を目指していきたい。そのためにも、交流の目的や観点を明確にし、対話的な学びの実現を図っていく。

（参考資料）

- ・教育科学 国語教育 明治図書
- ・新学習指導要領の展開 明治図書
- ・小学校国語 言語活動アイデア辞典 明治図書

- 1 単元名 教えてもらおう 教えてあげよう 小倉台小のすてきなところ
～小倉台小クイズをつくろう～

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、

1 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

イ 姿勢や口形, 発声や発音に注意して話すこと。

オ 身近なことを表す語句の量を増やし, 話や文章の中で使うとともに, 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き, 語彙を豊かにすること。

2 思考力, 判断力, 表現力等

「A話すこと・聞くこと」

(1) エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き, 話の内容を捉えて感想をもつこと。

オ 互いの話に関心を持ち, 相手の発言を受けて話をつなぐこと。

(2) イ 尋ねたり応答したりするなどして, 少人数で話し合う活動。

に基づいて設定している。

児童はこれまでに, 話すこと・聞くことについて3単元の学習をしてきている。その中で, 身近なことから話題を決めて伝え合うために必要な事柄を選ぶことや, 伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫することを学んできた。また, 全体に発表する前にグループ内で発表練習をし, 互いにアドバイスをし合う活動を設けてきた。これらの学習から, 全体に対して発表する力や友達の話聞いてそれに対して感想を伝える力が伸びてきた。本単元では話したり聞いたりする対象を, これまでのような学級の友達から, 学校の先輩である6年生と学校の先生方まで広げた。これらの人たちから話を聞くという学習を設定することで, 児童は尋ねたり応答したりする力の必要性を今まで以上に感じながら学習を進めていくことになる。

本単元では2つの主な活動を設定した。1つ目は, 6年生に小倉台小学校で頑張ってきたことをインタビューし, そこで聞いたことを「この6年生は誰だクイズ」にして6年生に答えてもらう活動である。ペアを組んだ6年生からこれまでの努力や達成感を味わったことなどについて話を聞き出すためには, 児童が質問を重ねたり, その思いを受け取ったりすることが必要である。その活動の中で, 1対1でのコミュニケーションを育てていきたいと考えた。次にインタビューで大事なことを落とさずに聞き, それを伝えられたかを「この6年生は誰だクイズ」で確かめる。グループの友達や6年生に, インタビューで聞いたことを報告し, ペアの6年生に内容が正確に伝えられたかを評価してもらう。同時に今までお世話になった6年生について, これまでは知らなかった努力や思いがあったことをグループで共有し, 仲を深めて欲しいという願いもある。

2つ目の活動は, 先生方へのインタビューと, そこで聞いたことを「小倉台小クイズ」

にして情報を受け取り合うことである。3学期の児童達は、新年度への期待もいっぱいである。生活科の学習とからめて、2年生になってから1年生にしっかりと小倉台小学校の案内ができるように詳しくなろうという長期的な目標を設定し、各自が知りたいことを、小倉台小について詳しい先生達にインタビューをしてくる。聞いてきたことを学級で報告し、その報告の内容からクイズを作る。全員がクイズに答えられるようになるという短期的な目標を設定することにより、情報を落とさずに聞こうとするだろう。インタビューによって情報を取り出し、大事なことを伝え合う言葉の働きに気付いたり、その良さを感じたりして欲しいと思い、本単元を設定した。

(2) 児童の実態

本単元を指導するにあたり、児童に行った実態調査は以下の通りである。

1年4組 (調査人数 男子13名 女子20名 計33名)

朝の会で行ったスピーチを基に、指導者が実態を捉えた。

① 朝のスピーチで、身近なことから話題を決めて原稿なしで学級全体に向かって話をする ことができる。	
3文以上話せる。	26名
2文程度話せる。	6名
1文だけ話せる。	1名
② 学級全体に対してスピーチする際、適切な声の大きさや速さで話することができる。	
適切な声の大きさや速さで話せる。	13名
話す声が小さい。	17名
話す速さが速い。	1名
話す声が小さく、速さも速い。	2名
③ 教師の話聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。	
内容を理解し、感想を持てる。	25名
内容を理解するが、感想が持てない。	5名
内容に誤りがあるが、感想を持てる。	3名
内容に誤りがあり、感想が持てない。	0名
④ 1対1で友達の身近な出来事聞き、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。	
感想や質問を返して話をつなぐことができる。	0名
質問を返して話をつなぐことができる。	24名
ほとんど質問を返すことができない。	9名

本学級の児童は自分の話を聞いてもらいたいという意欲が旺盛である。休み時間に教師や友達に向かって、自分の楽しかった出来事を盛んに話している。自分からコミュニケーションを図っていく活発な児童が多い。朝の会で、スピーチや週末の出来事を話すなどの機会を与えると、どの子も自分の経験や思いを話すことができる。そして相手の経験や思いを聞き、感想を伝えたり質問をしたりすることができる。質問されたことに答えることもできる。低学年としての基礎的な力は身に付いている。

しかし、実態調査②の結果を見ると話す声の大きさに課題のある児童が多い。話す時の姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことを継続して指導していく必要がある。また、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように聞くことはだい

たいの児童ができているが、感想をもてななかったり、誤って聞き取っていたりする児童もいることがわかった。この結果から、児童が感想を持つことや正しく聞き取ることの必要性を普段あまり感じていないのではないかと考えた。感想を交流したり、情報を伝え合ったりすることの大切さや良さを感じられる指導をしていく必要がある。

実態調査④では、本単元で身に付けさせたい「相手の発言を受けて話をつなぐこと」について見取った。ほとんどの児童が質問を返して話をつなぐことができるが、その質問にはつながりがない。自分が興味があることについて質問するのではなく、ただ考えついた質問を投げかけている。普段の学習場面でも、紋切り型の「質問」と「答え」というペアの発話が続くことが多く、たくさん話したいために、無理矢理考えた質問をして、話がずれてしまうことも少なくない。話の大事な部分を落とさずに聞こうという意識ができていない児童がいることがわかる。相手の話を聞いて、大事なポイントを受け止め、質問を返してつなげていくことが課題である。

(3) 指導観

本単元の学習では、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように聞くことと、相手の発言を受けて話をつなぐことを身に付けさせたい。日常生活では、話しながら聞き、聞きながら話すことが繰り返される。対話は、話し合いや討論の学習の基礎となる大切な学習であるが、1対1で話していれば対話が成立するわけではない。「質問—答え」が繰り返される尋問のような対話ではなく、共感したりさらに疑問を伝えたりしながら続く「質問—答え—感想」のような対話を学習していきたい。この対話の繰り返しが、細切れのような内容に少しずつつながりや広がりをもたせるようになると考える。

また、話し手がどんなことを伝えようとしているのかを受け取る力や聞き取った内容を振り返ってどの情報を落とさずに伝えればよいのかを考える力を育てていきたい。そのためには、情報が正しく伝えられたかを確かめる必要がある。報告会をした後にそれが評価される場を設定し、児童が各自の力を確認できるようにした。本単元ではその評価の場が2度あることから、自分の力を前回よりも伸ばそうとしながら学習に取り組めるようにした。話して良かった、聞いて良かった、楽しかったという満足感や充実感、うまくいったという達成感をもたせることを意識して指導にあたる。また、言語によるコミュニケーションが基本であるが、まだうまく思いをすぐに言葉にできない児童もいることから、表情や頷きなどの非言語のコミュニケーションも大事な要素であることを認識してそれぞれの児童の実態に合わせた指導をしていく。

3 仮説との関わり

仮説1

相手意識や目的意識が明確となる課題を設定すれば、自分の思いや考えをしっかりともち、生き生きと伝え合うことができるであろう。

本単元では、様々な形で情報の伝達をしていく。情報をどのように取り出すのかを考えるとき、何のために取り出すのかを理解させることが必要である。2年生になってから1年生にしっかりと小倉台小学校の案内ができるように詳しくなろうという目的のためにインタビューをすることを理解させ、どんなインタビューにすればよいのかをし

っかりと考えさせていく。しかし、そのような最終目標だけでは、取り組みにくい児童もいる。そこで、インタビュー内容をクイズにするという短期的な目標も設定し、楽しんで学習に取り組めるようにした。同時に、クイズがあることで報告会の内容を単なる友達の発表として聞くのではなく、聞いておかないと自分が後でわからなくなって困るだろうという意識を持つことができる。大事な情報を落とさずに聞こうとするだろう。

また、普段あまり話すことのない6年生や先生方とのコミュニケーションの機会は、児童にとって大きな学習意欲となる。自分がクラスを代表してその人にインタビューしているのだという意識を持つことで、きちんとした話し方をしようしたり、質問の内容を真剣に考えようしたりするだろう。

仮説2

話し方や聞き方を身につけさせる指導の工夫をすることで、対話的な能力が育ち深まりのある話し合いができるであろう。

本単元では、1年生として初めて1対1でのインタビューの仕方について学習する。これまで行った話す聞くの学習では、本校で作成した「話し方あいうえお」や「聞き方あいうえお」に則って話し方や聞き方を指導してきた。学級全体の前でのスピーチやグループでの発表の際に、2つの資料を活用してきた。本単元でもこの2つを指導の基本に据える。相手に伝えるため、相手の話をしっかり聞くための方法は同じだということを理解させ、安心して取り組めるようにしたい。また、毎時間の始まりに、話し方聞き方ドリルを行う。早口言葉で口形を意識させたり、音読キャッチボールで相手に声を届けられているのか確かめたり、伝言ゲームで友達の話した内容をしっかり聞いて覚えたりする。毎時間行うことで、少しずつスキルアップしていることを自分でも自覚できるようにすることで、話すことや聞くことに自信を持って取り組めるであろう。

初めての対話の学習なので、質問の仕方や相づちについても丁寧に指導をしていく。これは、ピアサポートの学習を並行して行い、相づちをうったり質問をしたりして対話することで思いが通じ合うことの気持ち良さを体験させていく。質問は、よくわからないことがあったときにもう一度話してもらうためや、聞いている内容からさらに質問をしたいことを聞くために必要で、質問すると詳しい内容が聞き取れ、良いインタビューになっていくことに気付かせる。さらに、6年生に事前に対話をする様子をビデオに撮ってもらい、AとBのシーンでどちらの対話がより良いか、どんなところが良かったのかを考えさせる時間を設ける。このことで、「質問—答え」が延々と続くばかりでなく、共感したりさらに疑問を伝えたりしながら続く「質問—答え—感想」のような対話が理想であると示す。相手の答えだけでなく気持ちを受け取ってコミュニケーションの良さを感じながら学習をしていきたい。

また、聞き取る相手が6年生や先生方であることから、親しみがあっても丁寧な話し方をする場面であることを理解した上で実践できるように指導し、練習時間も確保する。

4 単元の目標

- ・単元全体の見通しを持ち、小倉台小学校の素敵なところについて質問したり、自分が聞きたいことを落とさないように聞いたりしようとする。【関心・意欲・態度】
- ・相手の話した内容について感じたことを返しながらか、質問をつなげることができる。

【話すこと・聞くこと】

・聞いたことを生かしながら、メモをもとに必要な事柄を話している。

【話すこと・聞くこと】

・大事なことを語句のまとまりとして捉えている。

【言語事項】

5 指導計画（11時間扱い）

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点・評価方法）
第一次	1	・小倉台小学校について先輩や先生方にインタビューし、素敵などころを更に見つけていこうという単元の見通しをもつ。	○小倉台小についてもっと詳しくなるうという学習に興味をもち、先輩や先生達に聞きたいことを考えようとしている。【国語への関心・意欲・態度】（授業後の感想シート）
第二次	6 本時 (15 分)	・6年生に小倉台小学校で頑張ってきたことを聞きに行く準備をする。	○知りたいことを聞いて発表するまでの手順や留意点を理解し、見通しを持っている。【国語への関心・意欲・態度】（ノート）
		・『学校のことをつたえあおう』を読んだり、6年生の対話ビデオを見たりして、知りたいことを聞くための質問の仕方について整理する。	○どんな質問をすれば詳しい内容が聞き取れるかを考えようとしている。【話すこと・聞くこと】（発表）
		・前時の学習を「質問のコツ」にまとめ、友達とペアで質問をする練習をする。	○質問を重ねて、内容を聞き取る練習をしている。【話すこと・聞くこと】（ペアでのインタビュー練習の様子）
		・実際に6年生にインタビューし、聞いてきたことを思い出してメモを整理する。	○6年生の話した内容の大事なところを受け止めて、質問したりメモをしたりしている。【話すこと・聞くこと】（6年生へのインタビューの様子とメモ）
		・6年生から聞いてきたことをグループ内で発表する。「この6年生は誰だクイズ」をして、聞いてきたことが正しく伝えられたかを6年生に確認してもらう。	○聞いたことを思い出して、メモをもとに必要な事柄を話している。【話すこと・聞くこと】（クイズの様子）
		・6年生から教えてもらった、小倉台小学校の素敵などころを学級で共有し、もっと知りたいことを出し合う。	○友達の話に関心をもって聞き、発言を受けて話をつないでいる。【話すこと・聞くこと】（グループでの話し合いの様子）
第三次	4	・話を聞きたい相手や聞きたいことを決め、質問を整理する。	○インタビューする人にどんな質問や感想を言えば良いか考えようとしている。【言語事項】（ノートやインタ

	実際にインタビューに行つて、発表メモを作る。	ビューシート)
	・メモを元に、発表の練習をしたりクイズを作ったりする。	○必要なことが正しく伝わる発表をしようとしている。【言語事項】(クイズ原稿や練習の様子)
	・メモを見ながら、聞いてきたことをみんなに伝え、最後に小倉台小クイズをする。	○聞いたことを思い出して、メモをもとに必要な事柄を話している。【話すこと・聞くこと】(クイズの様子)
	・単元を通して、小倉台小学校について詳しくなったことや、話し方で上手になったことを振り返る。	○インタビューをする時や、発表をする時に、どんなことに気を付けたかを振り返ろうとしている。【話すこと・聞くこと】(発表やノート)

6 本時の指導 (5/11)

(1) 目標

- ・6年生の話聞き、感じたことを返して話をつなげようとしている。

【関心・意欲・態度】

- ・6年生の話した内容の大事なところを受け止めて、質問したりメモをしたりすることができる。

【話すこと・聞くこと】

(2) 展開

時配	学習内容と活動	指導・支援 ○評価	資料
10	1 3つの話し方聞き方ドリルで楽しく口の体操をする。 ・早口言葉 ・「いるか」の音読キャッチボール ・伝言ゲーム	・毎時間の始まりに同じドリルをすることで、楽しい雰囲気を作る。 ・姿勢や口形に注意するよう声をかける。 ・「話し方あいうえお」ができていれば、段々友達との距離を長くしていくことで、話し方に注意を促す。 ・友達の話した内容をきちんと聞き取れているか自分でチェックしながら楽しくゲームをさせる。	「いるか」の掲示物
3	2 本時のめあてを確認する。	・単元の流れを確認し、インタビューへの意欲を高めさせる。	単元の流れの掲示物
	6年生に、おぐらだい小でがんばってきたことについてインタビューしよう。		
7	3 インタビューの準備をする。 ・質問のコツを確認する。 ①どうしてやろうと思ったの	・前時までに見童らが作成した「質問のコツ」をインタビューシートで確認する。	インタビューシート

	<p>か。</p> <p>②どれくらい頑張ったのか。</p> <p>③どんな気持ちだったか。</p> <p>④どうやったらうまくいったか。</p> <p>⑤どんな人と頑張ったのか。</p> <p>・受けてかえす言葉や頷き、相づちを挟むと良いことを確認する。</p>	<p>・わからない言葉やもっと聞きたくなったことを質問したり、「ど」を頭文字にした質問をしたりすると良いことを確認する。</p> <p>・全ての質問をする必要はないことを再度確認し、各自が楽しんでインタビューをできるようにする。</p> <p>・受けて返す言葉には、理解や共感、感想などがあることを押さえる。</p>	
20	<p>4 ペアになった6年生にインタビューをする。</p> <p>・1回目のインタビューをする。</p> <p>・メモをとり、6年生に話し方や聞き方を評価してもらう。</p> <p>・2回目のインタビューでさらに聞いてみたいことや、ほかにかんばったことがあるか聞いてみる。</p> <p>・メモをとり、6年生に話し方や聞き方を評価してもらう。</p>	<p>○6年生の話聞き、感じたことを返して話をつなげようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>・相手の発言を受けてうまく言葉がつけられない児童がいたら、サポートの6年生に声をかけたり教師が隣についたりして、一緒に共感したり、質問を選んだりして安心して取り組めるようにする。</p> <p>・1回目のインタビューの評価をもらうことで、2回目のインタビューの時に注意することを自分で気がつけるようにする。</p> <p>○6年生の話した内容の大事なところを受け止めて、質問したりメモをしたりすることができる。</p> <p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>・1回目のインタビューで聞いたのに忘れてしまってメモがとれなかったら、もう一度聞くように声をかける。</p> <p>・2回の評価で、自分の話し方や聞き方がどのようだったかを振り返らせ、学習の到達度を自分なりに測らせる。</p> <p>・インタビューをするときに大事な「あいいうえお」や、質問の仕方、受けて返す言葉について確認する。</p> <p>・6年生と楽しくインタビューできたことへの満足感を味わい、次時にクイズ大会をすることへの意欲を高める。</p>	<p>受けて返す言葉の 掲示物</p> <p>評価カード</p>
5	<p>5 今日の学習を振り返る。</p> <p>・インタビューをするときに、どんなことに気を付けられたか</p>		

	振り返る。 ・インタビューをした感想を述べる。	
--	----------------------------	--

(3) 板書計画

「いるか」
早口言葉

受けて返すことばの例

は〜。 😊 ・なるほど。

ひ〜！ 😊 ・そんなことがあったんですね。

ふ〜ん。 😊 ・そうなんです。いいですね。

へえ〜。 😊 ・わたしも〇〇は好きです。それはむずかしそうですね。

ほ〜。 😊 ・〇〇が好きなんです。〇〇がむずかしかったですね。

か

6年生に、おぐらだい小でがんばってきたことについてインタビューしよう。

おしえてもらおう おしえてあげよう
おぐらだい小のすてきなところ

6年生の評価カード

6年生の名前	1年生の名前
➡	
	◎○△
あいての目を見てはなすことができたか。	
いそがずゆっくりはなすことができたか。	
うなずきながらきいていたか。	
えがおでインタビューができたか。	
おわりまではっきりとはなすことができたか。	
コメント (きちんと質問ができていましたか。受けて返す言葉が言えていましたか。)	

1 単元名 すてき発見！聞いて！マイブーム

2 単元について

(1) 単元観

本単元は新学習指導要領

1 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意して話すこと。

2 思考力、判断力、表現力等

「A話すこと・聞くこと」

(1) ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。

イ 相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えること。

エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。

(2) ア 説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。

に基づいて設定した。

児童はこれまでに、話すこと・聞くことについては第1学年、第2学年では、事柄の順序を考えて話すことを学んできた。第3学年「たからものをしようかいしよう」で、伝えたいことがわかるように、筋道を立てて話す活動を経験している。第4学年「くらべて発見しよう」では、共通点と違う点について考え、整理して話す学習をしてきた。

本単元は、今自分が興味をもっていることについて、その理由、その魅力、さらに高めていきたいことや追求して行きたいことなどを話したり聞いたりするという言語活動である。クラス替えから2ヶ月、少しずつ友達の輪は広がってきているようだが、休み時間の様子を見ると、声をかけてもらうことを待っているような児童もいる。お互いのことをさらに深く知り、仲良くなることを目的とし、スピーチ大会を開く。自分を知ってもらいたいという思いをもって話題を選び、その理由、マイブームとなったきっかけなどを含めながらよく伝わるように話す。また、友達のマイブームについて自分と比べながら聞いて感想や質問を述べる。さらに、聞いたことを違うグループの友達に発表する機会を設け、内容を正確に聞こうとする意識をもたせる。このような学習を通して、相手に伝わるように、丁寧に理由付けしながら話す力、自分の考えをもちながら聞く力を育てていきたい。そして、双方向のやりとりの中で、言葉で伝え合うことは、人と人とがより理解し合うための大切なツールであると感じ、言葉のよさに気付いてほしい。

(2) 児童の実態

本単元を指導するに当たり、児童に行った事前アンケートは以下の通りである。

4年1組(調査人数 男子17名、女子18名 計35名)

朝の会で行ったスピーチを基に、指導者が実態を捉えた。

① 自分の好きなテレビ番組について理由を添えてスピーチできる。	
詳しく理由を付けてスピーチできた。	17名
簡単な理由(面白い・楽しい)を付けてスピーチできた。	17名
理由をつけられなかった。	1名
② 教師のスピーチを聞き、簡単なメモをとりながら聞ける。 (マイブーム、きっかけ、その魅力《3つ》)	
大事なことを落とさず、メモをとりながら聞いた。	17名
話のたい(マイブーム・きっかけ)をメモがとりながら聞いた。	5名
ほとんどメモをとりながら聞くことができなかった。	13名

本学級の児童は、「自分のことを話す」ということを苦手と感じている児童が多いようである。クラス替えがあり自己紹介した時には、自分の好きなことを理由付けしながら話せる児童は少なく、ほとんどの児童は一文の自己紹介であった。そこで、相手に伝わる話し方を身に付けさせるため、朝の会でスピーチタイムを設定した。現在、「好きなテレビ番組や本について」を話題とし取り組んでいる。好きな理由も話すという条件を付け、型を示し取り組んでいるが、「面白いから」「楽しいから」で終わってしまう児童が半数ぐらいいる。理由がいくつかあると話せた児童や、好きな理由を詳しく話せる児童がスピーチした時には、より伝わったことを確認し、手本とするように話してきた。また、知識・技能面に付いては、皆の方を向いて話せる児童は多いが、聞き手に十分伝わっているか反応を見ながら話すことは難しい。聞くことについても話し手を見て聞くことはできるが、うなずいたり相槌をうったりと反応を示すことができる児童は少ない。朝の会のスピーチや日々の学習の話し合いの場面で継続的に取り組んでいき、話す力・聞く力の定着を図っていきたい。

(3) 指導観

この単元をすすめるにあたって、自分のことを話すことが苦手な児童が多いのでスピーチに向けての準備はしっかりと行いたい。話題を決める場面では、今読んでいる本、好きなテレビ番組、好きなお笑い芸人やスポーツ選手、好きな学習、頑張っていること、好きな学習、好きな食べ物、家でよくやっていること等をまず書き出し、その中から、皆に知ってもらいたい自分やまだ知られていない自分を選ぶようにする。スピーチの組み立てを考える場面では、マイブームとなった理由、きっかけや魅力が友達により伝わるように、話す内容を考えていく。ただ「面白いから」「楽しいから」ではなく、その面白さや楽しさが伝わるように丁寧に理由付けし、話せるようにする。また、相手に伝わるような話し方とはどのようなものなのか皆で話し合っ、スピーチの構成を考える。教師から与えられたスキルを覚えるのではなく、考え、工夫し皆で新しい発見をするという対話的な活動を行うことで、伝え合う力が育っていくと考える。スピーチ大会は、4人のグループで行う。友達のスピーチを聞いた後、その内容を違うグループに発表する機会を設定し、紹介する

ために聞くという目的をもつことで、話の中心を捉えて聞くことができるようにしたい。また、友達が興味関心をもっていることを、自分はどう思っているか考えながら聞くことで、自分の考えをもてるようにしたい。

3 仮説との関わり

仮説1

相手意識や目的意識が明確となる課題を設定すれば、自分の思いや考えをしっかりともち、生き生きと伝え合うことができるであろう。

クラス替えから2ヶ月の児童達は、自分を知ってもらいたいもっと仲良くなりたいという思いは強くもっている。そこで、「すてき発見！聞いて！マイブーム」という単元を設定することにした。「お互いのことをさらに深く知り、仲良くなる」という目的意識、クラスの友達に向けてスピーチするという相手意識をもって、意欲的に学習を進められると考える。「マイブーム」という話題は、幅が広いと考えるが、話すことが苦手な児童にとっては難しいかもしれない。そこで、「今好きな○○」「今頑張っている○○」「よくやっている○○」などいくつも想起させ、その中から、1番皆に知ってもらいたいことを選ぶことで、伝えたいという思いをもって主体的に活動できるようにしたい。また、自分の事をさらに深く知ってもらうには、マイブームとなったきっかけやその魅力を丁寧に理由付けしながら話さなければならない。相手にわかりやすく伝えたいという思いや必要性を感じながら学習を進めることで、言葉で伝え合う力が高まることが期待できる。さらに、聞いたことを、他のグループの友達に発表することにより、友達を理解するために聞くだけでなく伝えるために聞くという目的をもたせ、話す・聞く活動をより充実したものにしていきたい。

仮説2

話し方や聞き方を身につけさせる指導の工夫をすることで、対話的な能力が育ち深まりのある話し合いができるであろう。

スピーチの組み立てを考える場面では、自分の話を相手により理解してもらうために、どのような構成で、どのような音声表現の工夫をすればよいのかしっかりと考える学習を行う。教師が型を示すのではなく、皆で話し合いながら型を作り、音声表現の目当てをたてるという活動を大事にすることで、相手に伝わるように工夫して話す力が育つと考える。また、単元名「すてき発見！聞いて！マイブーム」の「すてき発見！」のための聞き方についても皆で考える。心が話し手の方を向き、相手を理解しようという気持ちをもって聞くことは、この単元の目的を達成する上で重要なポイントであると確認し、本学級の「聞き方ルール」を作っていく。聞く場面では友達の魅力を発見するという目的をもたせる。さらに、聞いて発見した友達の魅力を他のグループの友達に伝える活動を入れる。伝えるためには、何をどのように聞けばよいのか自ら考えたり、より知りたいという思いをもち、質問をしたりする主体的な聞き方へとつながっていくことが期待できる。さらに、聞いたことを発表する場面では、自分の聞く力は十分なものだったのか確認することができる。自分の聞き方を自己評価することで、さらによりよい聞き方を身につけていけると考える。

4 単元の目標

- ・友達に紹介したいマイブームについて考え、進んで伝えようとしている。
【国語への関心・意欲・態度】
- ・相手を見て話したり聞いたりすることができ、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。
- ・相手に伝わるように、理由などを挙げながら、話の組み立てに気をつけて話すことができる。
- ・話の中心に気をつけて聞き、自分の考えとの違いを考えながら感想をもつことができる。
【話すこと・聞くこと】

5 指導計画（8時間扱い）

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点・評価方法）
第一 次	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「すてき発見！聞いて！マイブーム」スピーチ大会を開くことに関心をもち、学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。 ・教師のモデルを示し、マイブームを紹介し合うときに必要な事柄を考え、学習計画を立てる。 ・本単元におけるマイブームとはどんなものなのか共通認識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マイブームを発表し合うという学習に興味をもち、自分のはまっていることは何か考えようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】 (発表・ワークシート)
第二 次	4	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介したいマイブームを選び、教師のモデルを参考にしながら、どのように話したら自分の事をもっと知ってもらえるか、聞き手に分かりやすく伝わるのか考える。 ・皆で考えた話の型をもとに、スピーチメモを書く。 ・相手に伝わる話し方について考え、話し合う。音声表現を工夫した話し方を練習する。 ・すてき発見のための聞き方について話し合う。もっと知るための質問やより理解したと感じる感想の伝え方も考える。 ・ペアでスピーチを聞き合い、内容や話し方のアドバイスをし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○紹介したい事柄をはっきりとさせ、スピーチの組み立て方について考えている。 【話すこと・聞くこと】(ワークシート・発表) ○話の型をもとに、マイブームのきっかけや、その魅力について考えながら表現している。 【話すこと・聞くこと】(ワークシート) ○音声表現を工夫して、わかりやすく伝えようとしている。 【話すこと・聞くこと】 (発表練習・ワークシート) ○相手を受け止める聞き方とはどういうものか考えている。 【話すこと・聞くこと】(発表・ワークシート)

			○話の構成を考えたり、音声表現を工夫したりし、より伝わりやすく気をつけて話している。 【話すこと・聞くこと】(ワークシート)
第 三 次	2 本時 (7/8)	・グループごとに、マイブームスピーチ大会をひらく。 ・聞いた内容を違うグループの友達に伝える。	○自分のことを話す楽しさを味わいながら、相手に伝わるように工夫して話している。 ○必要なことを記録し、感想を伝えたり質問したりしながら聞いている。 【話すこと・聞くこと】(ワークシート・発表)

6 本時の指導

(1) 目標

- ・友達に紹介したいことを進んで伝えたり、友達のスピーチについて興味をもって聞き感想や質問を述べたりしようとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- ・相手に伝わるように、話の組み立てに気をつけ、音声表現を工夫して話すことができる。
- ・話の中心に気をつけて聞き、自分の考えとの違いを考えながら感想をもつことができる。 【話すこと・聞くこと】

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
3	1 本時のめあてを確認する。	・前時までの学習を想起し、流れを確認する。 ・単元名を確認する事で、この単元の目的意識を高める。	掲示物
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ④ 「マイブーム スピーチ大会」をして、友達の「すてき」を発見しよう。 </div>		
7	2 スピーチ大会の進め方、話の聞き方や質問・感想の述べ方を確認する。	・掲示物を用意し、学習の流れを確認しながら進められるようにする。 ・相手に伝わる話し方を掲示物で確認する。 ・話し合った、4-1聞き方ルールを思い返すよう話す。	話の型 聞き方 ルール

15	<p>3 グループごとにスピーチ大会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループの二人が順番に話す。 ・必要な事を記録しながら聞く。 ・質問や感想を伝え合い、他のグループへ発表する準備をする。 	<p>○マイブームを進んで伝えたり、友達のスピーチに興味をもって聞いたりしようとしている。「関心・意欲・態度」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想をもつには、自分と比べることが有効であることを知らせる。 ・事前に話し合った感想や質問の型を掲示しておき、話を聞くことや感想を伝えることが苦手な児童への手助けとする。 <p>○相手に伝わるように、理由などを挙げながら、話の組み立てに気をつけて話している。</p> <p>○話の中心に気をつけながら聞き、感想をもっている。</p> <p>「話すこと・聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想や質問から、自分の話し方は相手にわかりやすく伝わったのか振り返るように助言する。 ・的確だった言葉を紹介し、感想語彙を増やす場としていく。 	ワークシート
10	<p>4 違うグループの友達に、聞いたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループへ発表する際は、聞いたことだけでなく、自分の感想も伝えるよう話す。 ・聞いたことを伝えることで、自分の聞き方について振り返りができるようにする。 	
10	<p>5 今日の学習を振り返る。</p> <p>○話し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声表現の工夫について ・嬉しかった感想や質問 <p>○聞き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き方ルールについて ・もっと知るために効果的だった質問 ・知ることができた友達の良さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点をはっきりさせることで、身に付いた力を振り返り、達成感をもてるようにする。 	振り返りシート

すてき発見！

聞いて！マイブーム

学

マイブーム スピーチ大会をし

スピーチ大会の進め方

- ① 三番目の人がスピーチをする。
メモを取りながら聞く。
- ② 質問や感想を伝え合う。
- ③ 他のグループに発表するため、メモを整理する。

質問や感想の型

- ・○○さんの〜ということが〜と思った
- ・私は、○○さんと違うけれど○○さんの〜が〜と感じた。
- ・△△の魅力は他にも〜があると思う。
- ・○○さんが〜をやっている私には、〜と思った。
- ・△△はいつからマイブームになっていますか。
- ・きっかけは何ですか。
- ・△△の魅力は何ですか。